

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 12 月 26 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503957		
法人名	株式会社ホンダニイマルヨン		
事業所名	グループホーム木之庄		
所在地	〒720-0082 広島県福山市木之庄町3-3-17 TEL 084-923-7163		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503957&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト		
所在地	〒739-1733	広島市安佐北区口田南4-46-9	
訪問調査日	平成23年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症は、自分の思い、思い出までが少しずつ壊れていきます。その不安を日常生活の中で、いつも同じことの繰り返しの日々を過ごすことにより、共に助け合い、安心して暮らせるよう職員一同努力しています。“傍に誰かが居てくれる”安心して最期(ターミナル)まで暮らせるグループホームです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム木之庄を設立した目的は、「地域に還元したい」という管理者の実母の思いを実現させたものだった。部屋数8室ではあるが、入居者一人ひとりに目や気配りが出来、家庭的な雰囲気のあるホームです。職員全員が目指しているのは、「入居者の喜びは、ご家族の喜びであり、安心です。その喜ぶ姿は、スタッフ全員の喜びです。」と掲げているように手作りのクリスマスカードや鶴亀の切り絵になった心のこもったお祝いカードを一人ひとりに作成されていた。そして、日頃の健康管理や緊急時の対応等の取り組みにおいて医療機関との連携を構築されており、安心して生活が出来、又、生活の質の向上へのサポートを提供しているホームといえる。</p>

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	掲示板に明示し、日頃よりミーティング中に話合っています。	「心身共に健康で思いやりのある暖かいグループホーム」を掲げ、皆で共有し、入居者の尊厳を大切に、日々のケアの中で具現化していくよう、取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者が重度化され外出はなかなか難しい面もありますが、状態を見ながら行ける場所には出かけるよう心がけています。	ボランティア(民生委員)によるギターやハーモニカ演奏の受け入れや町内の祭りに神輿が寄ったり、近所の方が気軽に寄られたりして、日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れを通じてグループホームや認知症の人の理解や支援の方法等を伝えています。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加を呼びかけ日程調整をしながら運営推進会議を行い、当施設の現状をお伝えし、意見交流をしています。	町内会長、市職員、民生委員、住民代表、管理者等で、2か月に1回、開催し状況報告や行事報告をしている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	お話しする機会があればその都度当施設の現状を伝えています。また困った時、相談したい時等市役所介護課へ行っています。	介護保険課とは、情報交換をしており、アドバイスを受けたたり、相談事等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は無いグループホームです。玄関や居室は施錠せず開放されたグループホームです。	玄関や居室は、施錠せず、自由に入出入りされている。身体拘束をしない配慮をし、入居者の安全確保を心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	いじめのないグループホームを目指しています。虐待は今のところありません。日頃からアザ、傷等注意しています。		

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前入居されていた方が利用されていましたが、今後も必要な人には活用出来るよう支援していきたいと思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居される時に説明しています。またその都度説明しています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人または本人に代わり家族から要望が出れば、その都度可能な限り対応しています。	入居者を共に支えていく家族との連携が有り、面会時に意見、要望を聞いて対応している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	よりよい施設にしていけるためにその都度話し合っています。	毎月のミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、職員の気づきや意見を運営に反映させるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	良いところは誉め、職員同志刺激を与え合いながらより良い介護サービスが出来るように努めています。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要と思われる研修には出来るだけ参加できるよう計画し調整しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流会には出来るだけ参加し情報交換等を通してサービスの質向上に努めています。		

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人からの訴えをよく聴き安心して生活が送られるように努めています。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	面会時、電話等で家族の話をよく聴くようにし、何が不安で困っているのか受け止めるようにしています。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	出来る事と出来ない事を見極め、他のサービスが必要であれば対応するよう努力しています。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	出来る作業は職員と一緒にしてもらい時には入居者から知恵を借りながらやっています。		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	家族にも出来る部分は協力していただき、皆で本人を支えていけるよう努めています。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	本人の住んでいた家の近所の方も面会に来られる事も有り、自由に来て頂けるよう声をかけています。	近所の方が来訪し、お茶を飲んだり、談話している。美容院や買い物に出かけて、馴染みの人と触れ合ったりもする。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	仲良く平穩に過ごせるように声をかけたりして入居者同志励まし合える関係を作れるように努めています。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	問い合わせが入ればその都度対応し家族からは近況を伺っています。		

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思が伝えられる方からは話の中から希望意向をつかみ、意思伝達が困難な方は家族からの話を元に検討しています。	入居者、一人ひとりに丁寧に関わり、その人らしさを見つめる努力をされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、これまでのサービス利用先から生活歴、経緯等を聞き把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状態に合った過ごし方をしてもらい残存機能を活かした介護をしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向、提携医療機関からの助言を元に、本人にとってよりよい介護計画を作成しています。	本人の望む生活の実現に向けて援助できるよう介護計画を立て、ケアの課題や資質向上の取り組みをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録を日々記入し、職員全体で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る事はできるだけ入居者の希望に応じられるよう家族とも相談しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、ボランティア、消防(消火訓練)、教育機関(実習生の受け入れ)と協力しながら支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の承諾を得て提携先医療機関で定期的なまたはその都度往診をお願いしています。	かかりつけ医による月2回の定期往診があり、電話でも相談が出来る安心の体制がある。	

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時提携先病院の看護師さんに個々の状態を伝えていきます。またわからない事、心配な事は相談しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前入院していた病院がある方はその病院へ依頼し、難しい方は提携病院と話し合い状態に応じた入院先を紹介してもらいます。入院後は綿密に情報交換を行います。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携病院と綿密に連絡を取り、本人の状態を共有し、救急往診も依頼出来る体制を整えています。	重要事項説明書に看取りについて規定し、家族にも説明している。職員は、県のキャリアアップ支援研修に参加して、緩和ケアの意義を理解し、今までも、本人、家族の思いや希望に沿いながら、看取り2名、施設内で2名、最後まで看取りの支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ターミナルケアを取り入れているため、その時、その場で常に容態の急変や初期対応に気をつけて介護に活かしています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行っています。また災害時近所の方が在宅であれば協力して頂けるようお願いしています。	消防計画等の防災計画に基づき、避難、救出訓練を行なっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの違いを尊重し、さりげない介護ができるように気をつけています。	入居者の生活スタイルを続けていくように個々のリズムを大切にしている。又、声かけや話し方に留意し、一人ひとりを尊重し、心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりに合わせた説明を行い、本人の希望に添った支援を心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活内で食事等大体の時間は決めてありますが、個々の状態に合わせ臨機応変に対応しています。		

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	以前美容院を利用していた方には近所の美容院まで付き添い支援していました。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節、旬の食材を取り入れ野菜の仕分け、スジ取り等出来るところを協力していただいています。	料理担当のスタッフもあり、季節や旬の食材を工夫して、高齢者向けの食事を提供されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分または繊維の多い野菜、色々な野菜の組み合わせ等栄養バランスには気をつけています。水分も1日1500ccを目安にしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨き、うがい等個々に応じて実施しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し声かけ、誘導しています。	入居者一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導をして排泄の自立に繋げている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため食事内容を工夫したり、運動、腹部を温める等しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	出来るだけ本人の希望に合わせて心掛けています。	一人ひとりの入浴習慣を踏まえたうえで、ゆっくりと入浴する事が出来るよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣を大切に、就寝時間は決めていません。また気持ちよく眠れるように寝具の整備も行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬内容をケース記録に添付しいつでも見られるようにしています。		

グループホーム木之庄

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。	日常生活で洗濯たみ、野菜の仕分け等出来るところは協力してもらっています。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	個々の状態をみながら、出来る限り対応しています。また家族へ本人の希望を伝え出来るだけ実現するように協力してもらっています。	市街地の生活に便利な場所に在り、買い物、散歩等、希望があれば、日常的に外出支援を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理が出来ない人が多い為、施設側で預っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	用事がある時等電話を利用してもらっています。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な家具を揃え、季節の花を飾る等明るい雰囲気になっています。	廊下に入居者の写真のごとく似顔絵が並んでいる。スタッフによって書かれたもので、入居者の目線で、いつも見つめられているがごとく微笑ましい。リビングの一角には、こたつが用意され、居心地の良い一家団樂の趣きがある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれに個室と共有空間には畳の間を設け自由に過ごせるようにしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や生活用品を持ってきていただいています。	入居時に本人の馴染みの家具や布団が持ち込まれ、手作りのクリスマスカードや鶴亀の切り絵等、心のこもった作品が飾ってある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入り口の扉に「便所」「エレベーター」等表記して迷わないように工夫しています。またトイレや廊下には手すりを設置しています。		

グループホーム木之庄

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム木之庄

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム木之庄

作成日 平成 23 年 12月 11 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者の重度化	・不安なく、安心して暮らせる	・寄り添う介護 ・1人1人に合った介護 ・いつも同じ暮らしの中で安心して居心地の良い家を目指しています	3年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。